

大分方言の可能表現について

キム・ジュンヒョン
(日本課程 日本語専攻)

キーワード：大分方言，可能表現，共通語化，世代差

0. はじめに

日本の方言では(不)可能の根拠により、言い方が変わることがよく観測される。特に、大分では全国でも珍しく、(不)可能の根拠により、3つの言い方をする。

- (1) a. ぼく、にんじんは食べきらん
- b. こんな高い椅子じゃ食べられん
- c. さっき友達とスパゲティー食べたけん、もう食べれんにい

松田(2009a: 98)

しかし、筆者が大分県で2年間暮らしながら観察した限りでは、このような使い分けは決して多くはないように感じた。本稿では、現在の大分方言において(1)で挙げた使い分けがどれほどなされているのかを調査し、考察する。



図1: 大分県の地図(都道府県市町村シンボル¹)

¹ 市町名は字の大きさの都合上、原本を基に筆者が書きなおしたものである。囲い線は今回の調査で回答が得られた地域。

調査のため大分に訪れた際、大分県の人々に大分方言について質問すると、口をそろえて「大分方言は九州より瀬戸内海の方言に似ている」と答える。大分方言は山口方言から多く影響を受け、理由を表す「-(だ)から」を「-(や)けん」と、非過去進行の「-ている」を「-ちよん」と話している。

1. 先行研究

1.1. 渋谷(1993)

共通語の可能表現では渋谷(1993)が図2のような「可能の条件スケール」を設定している。そして、可能表現における可能・不可能の条件について、左方は動作の主体内部に向かい、右方は外部に向かう構造である。本稿では可能の根拠の名称はこの渋谷(1993)のものを使用する。

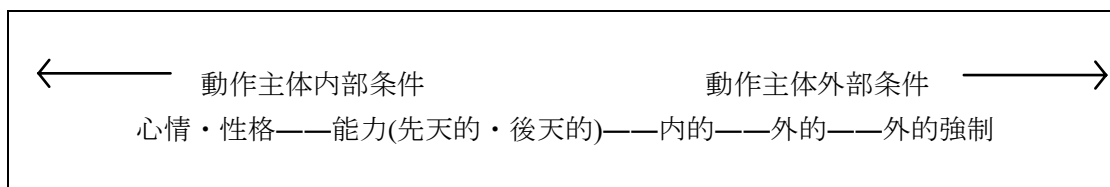


図 2: 可能の条件スケール

確認のために例をあげておくと次のようになる。

- (2) a. 恥ずかしくて結局彼女に話しかけられなかった。……………心情・性格
 b. 日本選手団は実力の差が出てアメリカに勝つことができなかった。……能力
 c. その日はからだの調子が悪くて会議に出席できなかった。……………内的
 d. その日は忙しくて結局会議に出席できなかった。……………外的
 e. あいつが結婚するなんて考えただけで笑えてしまった。……………外的強制

渋谷(1993: 29)

1.2. 松田(2003・2007・2009b)

松田(2009b)は、大分では、次のような可能表現が使われていると述べている。

- (3) a. 「心情可能」と「能力可能」はマス形+キル(否定形はキラン)……………キル形
 b. 「外的条件可能」は未然形+(ラ)レル(否定形ラレン)……………(ラ)レル形
 c. 「内的条件可能」は可能動詞形の語幹+レル(否定形レン)……………二重可能形
 d. 動詞の語幹+eru ……………可能動詞形

松田(2009b: 139)

本稿では、aとbとcをまとめて方言形とし、dとコトガデキル形をまとめて共通語形とする。

大分方言の世代差を調べた松田(2003)では、若年層のキル形が能力可能の意味を担当しつつ、内的条件可能、外的条件可能の順に勢力を伸ばしていることが分かっており、キル形の意味が広がりつつあるとしている。

松田(2007)では、2004年9月から10月に、大分県内の6地点(豊後高田市、安心院町(現宇佐市)、狭間町(現由布市)、野津町(現臼杵市)、弥生町(現佐伯市)、日田市)の中学生やその親、祖父母を対象にアンケートを行った。

その結果、キル形と(ラ)レル形の両方ともに、大分県の東北部に行けば行くほど区別は強くなり、福岡県の県境の近くにある日田市がもっとも安定して区別していることが明らかになった。

2. 調査

2.1. 調査の目的

松田(2007)のアンケートでは、問に対し、複数回答としながらも、可能表現を使い分けるかそうでないかで区別し、中間の選択を設けなかった。これでは大分地方の人々の実生活において可能表現の使用事態を知るには不十分である。

この調査では、アンケートにより、大分方言そのものを調査するのではなく、大分方言話者が生活の中で可能表現の使い分けをしているか、現在の実態を調べることを目的とする。

2.2. 調査方法

松田(2007)の結果と比較するために、松田(2007)で使用された25文の例文のうち24文²をそのまま使用し、回答方法をいくつかの選択肢から選ぶ選択式から、コトガデキル形で書いてある可能表現を書き直す書き直し式に変更した。

調査票の例文の抜粋基準に関して、松田(2007)を要約すると以下ようになる。

- a. 過去の調査で多数の話者の回答が一致した動詞を選択した。
- b. 可能の根拠・肯否・時勢と可能表現の関係が全て分かるように質問を作成した。
- c. 一段・二段活用動詞は「ら抜き可能形」と「二重可能形(レ抜き)」が同形のため除外。
- d. 可能表現は否定形で使われる頻度が高いため、否定形の例文を多くした。
- e. 内的条件可能についての典型例が不明なため、条件を細かく設定した。

(松田 2007: 2 要約)

調査は2013年9月8日~12日の5日間、大分県別府市で行った。先行研究で、大分方言には男女差がないということが分かっていたので、性差は区別しなかった。大学を他県で過ごす人が多く、県外生活歴が0年の人が少なかったため、他県生活歴が5年以下の話者を対象にした。そして、話者の出身地については、調査の結果、宇佐市、別府市、大分市、

² 筆者のミスにより22番目の例文が抜けている。例文は、「小さいころは夜のお墓なんてこわくて一人で行くことができなかった」であり、文法要素は、動詞が「行く」、過去、否定、心情である。

佐伯市、豊後大野市、日出町、杵築市、玖珠町、国東市、竹田市、津久見市の出身者からアンケートを取ることができた。

調査対象は、市役所の職員 52 名と大分県立別府青山高等学校の生徒 40 名である。また、知り合いの店にもアンケートシートを置き、15 名から回答を回収することができた。

先行研究では心情・能力可能ではキル形、内的条件可能では二重可能形、外的条件可能では(ラ)レル形と使い分けがあり、キル形が意味領域を拓けていると述べていた。筆者は先行研究での傾向は見られつつも、共通語化がある程度進んでおり、世代が若いほど共通語化が進んでいると予想した。

2.3. 調査結果

5 日間、107 名に 24 問のアンケートを行い、有効と思われる返答 83 件の分布を以下の表にまとめた。無効とした回答は 24 件のうち、21 件が他県生活 5 年以上、2 件が裏面未記入、1 件が不真面目な回答³だったものである。

3. 考察

3.1. 心情可能

全般的に可能動詞形が多く使われている。特に 10 代からは可能動詞形が約 97%(152 のうち 146 件)見られた。方言形だけを見ても、全ての年代でキル形が一番多く見られた。20 代で約 27%(45 中 8)と一番多く見られ、他の年代でも 10%(40 代。40 中 4)から 18%(30 代。48 中 10)と他の方言形より数多く現れている。しかし、10 代では約 2.63%(152 中 5)しか現れず、可能動詞形が約 97%見られた。

心情可能でのキル形の役割が強化されたと思われたが、10 代で可能動詞形に押されたように見える。

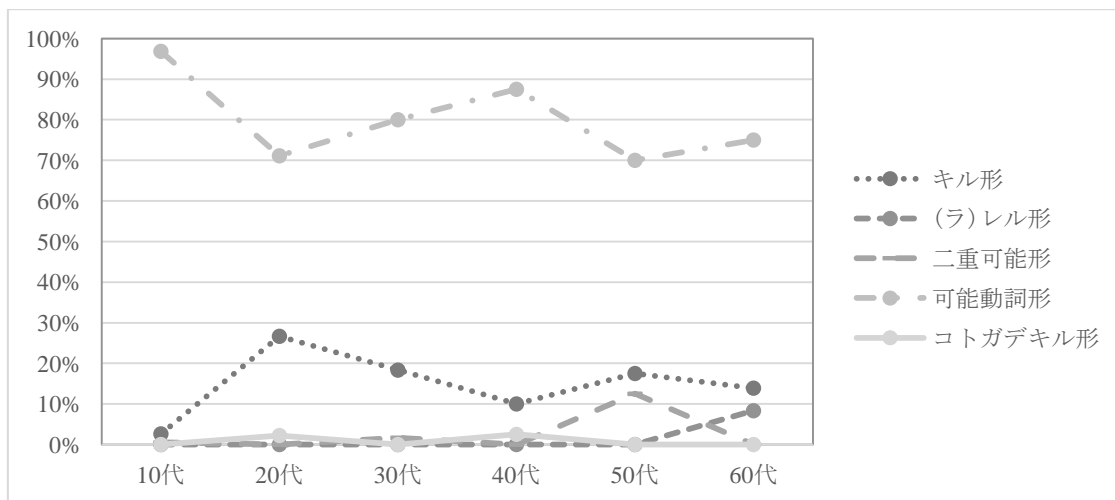


図 3: 年代別可能表現の出現(心情可能)

³ 年齢を 155 歳と記入。

3.2. 能力可能

先行研究では心情可能と同じくキル形が使われていると言われていた通り、60代では約27%(30中8)、それ以外でも20代で約18%(45中8)、30代で約12%(60中7)、40代で16%(50中8)と心情可能と同等の使用割合が見られる。

さらに、10代でキル形の使用割合が急激に落ちることも心情可能と同じである。図4を見ると、キル形は年代が下がるにつれ、使用用例の割合が下降し、10代では約2.63%(190中7)になっている。

それとは逆に、可能動詞形は年代が下がるにつれ、使用割合が上昇しているの、下の年代ほど共通語化が進んでいると言えよう。

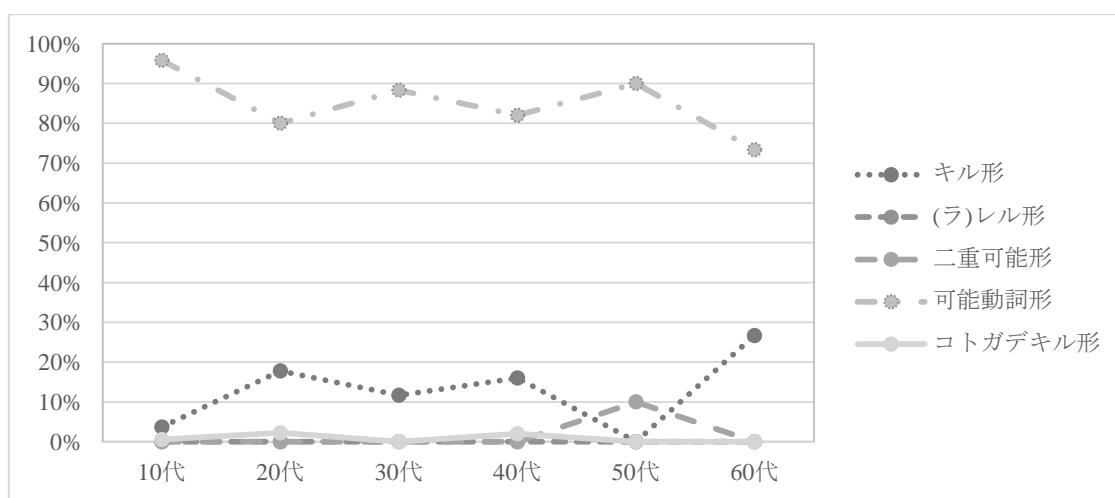


図4: 年代別可能表現の出現(能力可能)

3.3. 内的条件可能

20代と60代のキル形使用割合が他の方言形より高い(約13%)が、他の年代では使用があまり見られない。しかし、二重可能形が使われるはずの内的条件可能で二重可能形よりも多くの使用割合が見られたということは、キル形が内的条件可能に意味領域を拡張したといえるのではないだろうか。

50代では先行研究通り、二重可能形がよく使われているように見えるが、1人の話者がほぼ全答案に二重可能形を使用していた。その話者の回答から使い分けは認められず、同じ出身地の年齢が近い別の話者からはこのような返答は見られなかったので、個別の理由である可能性が高い。

内的条件可能でも、心情・能力可能と同じく、可能動詞型は年代が下がるにつれ、使用割合がゆるやかに上昇している。

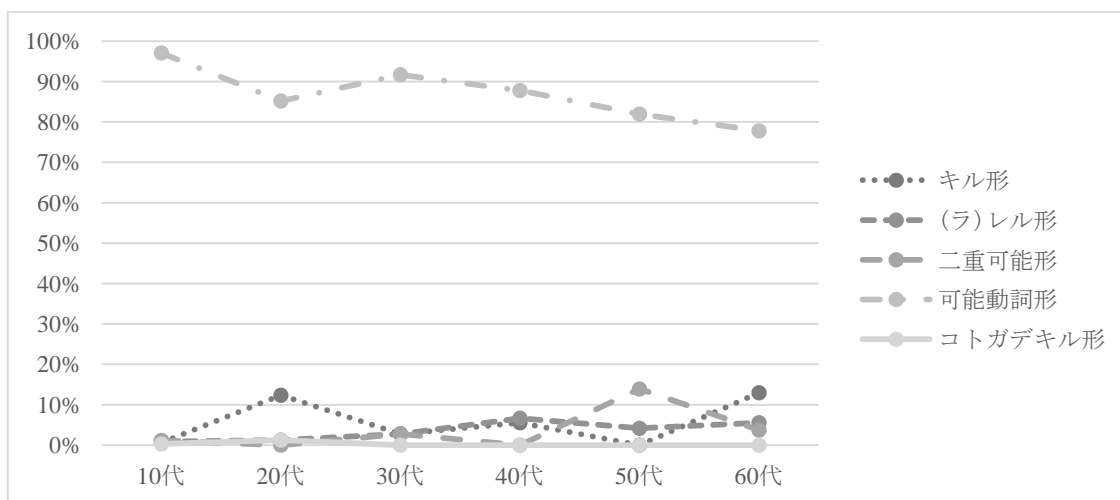


図 4: 年代別可能表現の出現(内的条件可能)

3. 4. 外的条件可能

外的条件可能では、60代の(ラ)レル形の使用が約20%(36中7)見られた。これは先行研究で述べられた通りだが、他の年代ではどれも10%に満たず、10代では0.88%(332中3)、30代では0%(72中0)だった。

40代の可能動詞形使用率が上記の3つに比べ高い数値を見せている。他の可能の根拠では心情が88%(40中35)、能力が82%(50中41)、内的条件で約88%(90中79)だったが、外的条件では約97%(60中58)ほど現れた。これを踏まえ、共通語化が一番進んでいるのは外的条件可能だと言えよう。

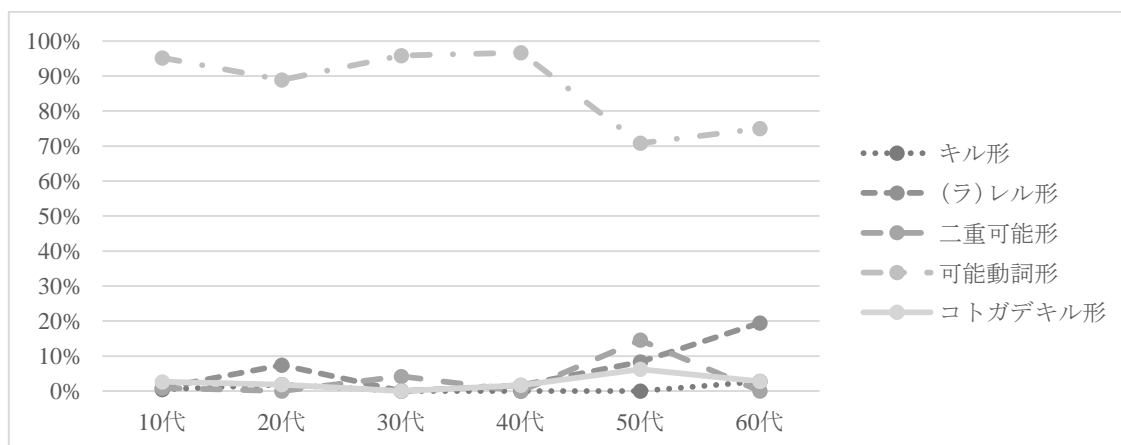


図 5: 年代別可能表現の出現(外的条件可能)

3. 5. 考察のまとめ

年代が下がるほど、方言の使い分けがシンプルになっている。共通語形の割合は、60代の全体では約75%であることに對し、10代では全体の95%以上を占めている。しかし、これは共通語の影響だけでなく、心情・能力可能を表していたキル形の意味領域の拡張によ

り、可能表現の区別が少なくなったことも影響している。

キル形の意味領域の拡張はこれ以上起こらないと思われる。能力・心情可能の結果をみると、共通語形が90%以上を占め、方言形の割合は約2%ほどである。原因はテレビやインターネットにより、若者が共通語に接する機会と時間が増えたことだと思われる。筆者が2年間大分で暮らしていた頃、福岡放送局のローカル番組があったが、そのローカル番組でも方言はほとんど使われず、共通語が話されていた。このようなこともあり、可能表現の使い分けはますます廃れていくであろう。

表1: 年代別方言使用用例数と可能方言の使い分け及びキル形の使用用例数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代
方言形使用 用例数	27 / 912 (2.96%)	33 / 216 (15.27%)	30 / 288 (10.41%)	24 / 240 (10.00%)	38 / 192 (19.80%)	34 / 144 (23.61%)
可能表現の 使い分け(人)	0 / 38 (0.00%)	2 / 9 (22.22%)	1 / 12 (8.33%)	2 / 10 (20.00%)	2 / 8 (25.00%)	2 / 6 (33.33%)
キル形の 使用用例数	15 / 27 (55.55%)	28 / 33 (84.84%)	20 / 30 (66.66%)	17 / 23 (73.91%)	7 / 38 (18.42%)	20 / 34 (58.82%)

4. まとめと今後の課題

大分方言の可能表現形式の3つと共通語の可能表現形式の2つを取り上げ、その実態を調査・分析した。その結果、共通語の可能動詞形がかなり深く浸透していることと、能力・条件可能の使い分けはまだされているが、外的条件可能と内的条件可能はほとんど使い分けがされていないことがわかった。

アンケート回答者の中には、アンケートで能力・条件可能の使い分けをせず、すべて可能動詞形でアンケート欄を埋める人が何人もいた。アンケート回収後、「キルやラレルは使わないか」と聞いたところ、その時に思い出し、回答欄に書き足そうとしていた。これは「知っているも生活の中では使わない」という人々が多いことを裏付けることだと思われる。

今回の調査ではアンケートシートの例文を共通語で記したこともあり、共通語の回答が多くなった可能性がある。アンケートシートの例文を大分方言に変えてアンケートを行い、今回の調査と比較することで、大分方言の現状をより正確に知ることができると思われる。

参考文献

- 渋谷勝己(1993)「日本語可能表現の諸相と発展」『大阪大学文学部紀要』33(1): i-262.
 松田美香(2003)「可能表現の変遷～大分郡挾間町の3世代～」『別府大学紀要』45: 1-12.
 _____(2007)「大分方言における可能表現の地域差・世代差」『別府大学紀要』48: A1-A16.
 _____(2009a)「「食べきらん・食べられん・食べれん」はどう違う?: 「～できる」にもいろいろ」九州方言研究会編『これが九州方言の底力!』96-99. 東京: 大修館書店

_____ (2009b) 「大分県佐伯市の若年層の可能表現」『別府大学紀要』 50: 139-148.

参考 URL

「都道府県市町村シンボル」 <http://expo.minnade.jp/ooita.htm> (2013/07/01)

付録: アンケート文

1. そのプールは工事中で泳ぐことができない
2. 時間がなくて行くことができない
3. 車があるので早く来ることができる
4. きのは便箋がなくて手紙を書くことができなかった
5. きのは用事があって郵便局に行くことができなかった
6. きのは時間ができてやっと郵便局に行くことができた
7. 今日は体調が悪いから仕事に行くことができない
8. 今日は気分が悪いから泳ぐことができない
9. 私は足をケガして泳ぐことができない
10. 今日は体調がいいから何時間でも泳ぐことができる
11. (ケガをしていながら水に入って泳ごうとしてみてもうまくできずに) やっぱり泳ぐことができない
12. きのは体調がよくて1キロ泳ぐことができた
13. 太郎は足をケガして泳ぐことができない
14. 練習しているけどまだ100メートル以上は泳ぐことができない
15. 私は海で10メートル以上は泳ぐことができない
16. 私は海で10メートル以上もぐることができる
17. 私はむかしは100メートルも泳ぐことができなかった
18. 以前は海で10メートル以上もぐることができたのに
19. (すでにお酒をたくさん飲んでいて) もうこれ以上飲むことができない
20. 夜のお墓なんてこわくて一人で行くことができない
21. 勇気があるから(私は)夜のお墓でも一人で行くことができる
22. きのは勇気を出してやってみたら夜のお墓でも行くことができた
23. (流れの急な川を途中まで渡りながら) こわくて向こうまで渡ることができない
24. きのは体調が悪くて仕事に行くことができなかった